

学校改革！教職員の時間創造プロジェクト

～働きやすい環境づくりのために～

ニュースレター

2022年6月



Vo.3

アヤマ

「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」について

プログラム策定の目的

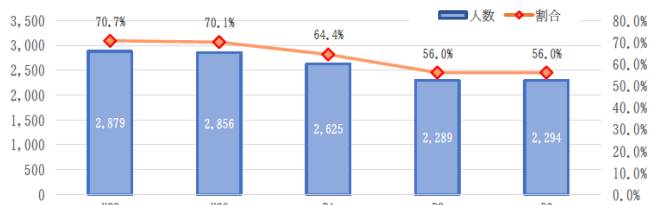
本市では、平成29年に「学校改革！教員の時間創造プロジェクト」を立ち上げ「学校改革！教員の時間創造プログラム」を策定しました。更に令和3年3月に「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」を策定し、教職員の長時間勤務の実態改善を進めてきました。プログラムの取組により、教職員の時間外勤務は減少傾向にあるものの、更なる取組が必要な状況です。今後更に、教職員が、心身の健康を保ちながら、ゆとりを持って本来の業務に携わる時間や自己研鑽の時間を持てるよう、また、新しい時代に対応した持続可能な学校運営が推進されるよう、本プログラムを策定しました。

「第2期 学校改革！教職員の時間創造プログラム」について、成果指標をより分かりやすくするとともに、検証のための学校の負担を軽減するため、令和4年3月に成果指標の一部等を改訂しました。

プログラムの達成目標と令和3年度の取組実績

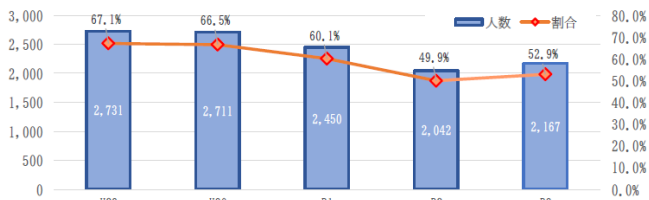
詳しくは[熊本市ホームページ](#)に掲載しております

目標1 正規の勤務時間外の在校等時間が1か月45時間を超える教職員数 **0人**



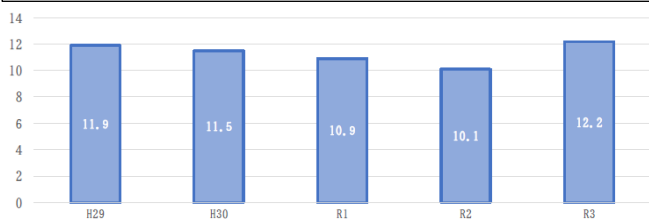
- ・平成29年度と比較すると約600人減少。
- ・令和2年度とは、人数・割合ともにほぼ同じ。

目標2 正規の勤務時間外の在校等時間が1年間360時間を超える教職員数 **0人**



- ・平成29年度と比較すると約600人減少。
- ・令和2年度と比較すると約100人増加。

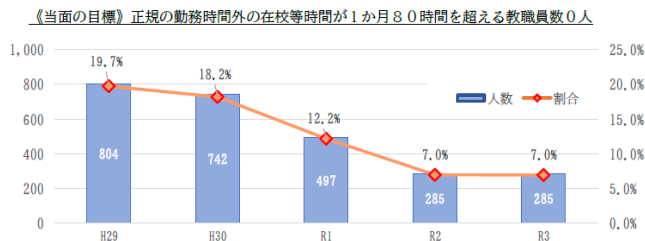
目標3 教職員1人あたりの年休の年間平均取得日数 **16日以上**



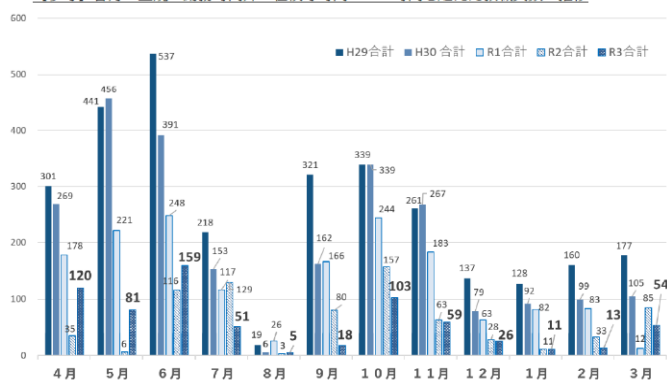
- ・平成29年度の11.9日から令和2年度まで、年々減少していたが、令和3年度は12.2日と大きく増加。

令和2年度と比較すると、目標1及び当面の目標においてはほぼ横ばい、目標2においては若干増加である状況です。また、目標3においては、平成29年以降年間平均年休取得日数は減少傾向にありましたが、令和3年実績では対前年比で約2日の大幅な増加となりました。すべての項目において目標達成には至っていません。しかし、令和2年4・5月は臨時休校期間だったことを考慮すると、取組の成果が表れているものと考えられます。

当面の目標 正規の勤務時間外の在校等時間が1か月80時間を超える教職員数 **0人**



【参考】各月の正規の勤務時間外の在校等時間が80時間を超えた教職員数の推移



まずは、当面の目標の達成を目指します。平成29年度と比較すると大幅に減少しています。月ごとの推移でも減少傾向にあることがわかります。

取組の実績は、先生方の出退勤打刻をもとに集計しています。先生方の働き方の現状をより正確に把握し、更なる取組の推進につなげていきたいと思っておりますので、今後ともご協力のほど、よろしくお願いいたします。

VO.4では、令和4年2月に行った教職員の勤務実態等に関するアンケートの結果をご報告します。

